

事業番号	15 07 01	事業改善シート（令和 6 年度実施事業分）	☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	■点検
事業名	生徒指導推進事業費	部局	教育委員会事務局	課・室	心の支援課	
		実施期間	S58 ～	E-mail	kokoro @ pref.nagano.lg.jp	

1 現状と課題

・不登校児童生徒は増加しており、それぞれのニーズに合った支援を行う必要がある。そのため、学校以外でも学びが継続できる仕組みを検討する必要がある。

・不登校の増加や長期化、また貧困・家庭環境の悪化に対応するため、スクールカウンセラー（以下 S C）による予防的取組や、スクールソーシャルワーカー（以下 S S W）による市町村の福祉部局との連携が必要。

・スマホ所持やインターネット利用の低年齢化が進み、ネットトラブルやネットいじめの増加、使用時間の増加傾向が見られることから、学校と保護者が連携した予防的取組が必要。また、ICTの活用状況について調査と啓発が必要。

2 事業目的

・不登校児童生徒が学びたい場所及び方法を保障し、また、いじめや不登校等の悩みについて子どもや保護者等が安心して相談できるようにする。

・性被害防止に関する指導・情報モラル教育によって、子どもたちを性暴力の被害者にも加害者にもさせない。

3 事業目的を達成するための取組

①不登校児童生徒の学習機会の確保及び社会的自立に向けた支援

・不登校児童生徒の学習機会確保や社会的自立に向けた支援のため、多様な学び支援コーディネーター配置により市町村での学校内外の教育支援センターの新設・増設・機能拡充を促進

②SCによる予防的・早期発見の取組及びSSWによる児童生徒を取り巻く環境等の改善を実施

・医療的な支援を必要とする子どもの早期洗いだしのため、全小学 4 年生、中学 1 年生及び高校 1 年生に対し、学年会への出席や全員面接を実施

・早期に支援を開始することにより二次障害や疾患の重篤化を防ぐため、臨床心理の専門性を活かし、ストレスマネジメント等の心理教育を実施

・家庭環境に困難を抱える児童生徒・保護者の早期発見・支援のため、市教育委員会への派遣を継続し地域の福祉部局と連携した支援体制を構築

③相談窓口設置による学校生活に関する様々な問題の改善を実施

・いじめや不登校など、学校生活における児童生徒や保護者の様々な悩みについて相談に応じるため、フリーダイヤルの 24 時間相談窓口を開設

・いじめや不登校などに起因する自殺防止のため、中学生・高校生向け L I N E 相談の窓口を通年で定期開設

4 成果指標

（推移の凡例 ㄦ：改善 ㄨ：悪化 →：変化なし —：数値なし）

No.	指標名	単位	R4年度		R5年度		R6年度		R6年度 目標値	達成 状況	目標値設定理由
			実績	推移	実績	推移	実績	推移			
①-1	教育支援センター（中間教室）を利用した児童生徒数	人	845	1,147	ㄦ	1,480	ㄦ	1,116	達成		不登校児童生徒の支援について、学校外における支援機関・施設との連携促進及び個に応じた適切な支援体制の充実を目指すため成果指標に設定し、過去 4 年間の伸び率の平均から前年度比 15% 増を目標に当該数値を設定した。
①-2	不登校児童生徒等が利用した民間施設等の利用児童生徒数	人	396	477	ㄦ	554	ㄦ	720	未達成		不登校児童生徒の支援について、学校外における支援機関・施設との連携促進及び個に応じた適切な支援体制の充実を目指すため成果指標に設定し、過去 4 年間の伸び率の平均から前年度比 35% 増を目標に当該数値を設定した。
②	S S W の介入により一定の改善が図られたケースの割合	%	60.9	63.2	ㄦ	63.9	ㄦ	61.5	達成		いじめ、不登校、暴力行為などの背景にある家庭的な問題に対して、社会福祉や精神保健福祉の専門家である S S W が介入し、総合的な支援を実施することにより児童生徒を取り巻く環境等の改善を目指すため、成果目標に設定し、S S W 人員増や過去の実績等から対 R4 実績比 1 % 増を目標に当該数値を設定した。 ※令和 6 年度事業点検及び令和 7 年度当初予算案シートに記載した令和 5 年度実績数値については小数点以下第 2 位の四捨五入処理に誤りがあったため、修正しました。（修正前：63.1、修正後：63.2）

5 本事業が貢献する総合 5 年計画の施策分野と達成目標

No.	施策分野（施策の総合的展開名）	達成目標 （☆印が付いているものは主要目標）	単位	直近 3 年間の状況				目標	
				年／ 年度	数値	年／ 年度	数値	年／ 年度	数値
5-2①	一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境の創出	不登校児童生徒が学校内外で専門的な相談・指導を受けた割合	%	2021 (R3)	66.6	2022 (R4)	67.4	2023 (R5)	67.6
				2027 (R9)	66.6				

6 事業コスト

（単位：千円、人）

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)	うち一般財源		
R6年度	0	422,069	38,749	460,818	296,158	423,994	13.0
R5年度	0	397,336	25,150	422,486	261,367	393,633	13.0
R4年度	0	390,806	0	390,806	244,321	376,008	13.0

事業番号	15 07 01	事業改善シート（令和 6 年度実施事業分）	☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	☒ 点検
事業名	生徒指導推進事業費		部局	教育委員会事務局	課・室	心の支援課

7 主な取組実績と成果

①不登校児童生徒の学習機会の確保及び社会的自立に向けた支援

・全市町村教委を対象にした不登校児童生徒への支援の仕組みづくり研修会を年 2 回、有識者等が不登校に係る課題を協議する懇談会を年 3 回実施した。また、5 市町村に多様な学び支援コーディネーターを配置することで、不登校児童生徒の学習機会を確保し、社会的自立に向けた支援の仕組みづくり等検証を推進した。

②SCによる予防的・早期発見の取組及びSSWによる児童生徒を取り巻く環境等の改善を実施

・全ての公立小・中学校へ計32,398時間、県立高校及び県立特別支援学校へ計7,707時間 S C を派遣し、支援を必要としている児童生徒の悩みに適切かつ迅速に対応した。また、S S W を教育事務所に配置するとともに市教育委員会に派遣し、児童生徒の問題の背景にある家庭的な問題の改善に向けた支援を計22,133時間実施することで、児童生徒を取り巻く環境等の改善を図った。

③相談窓口設置による学校生活に関する様々な問題の改善を実施

・24時間相談電話で年間を通して臨床心理士又は公認心理師 1 名を配置し、夜間休日は民間に委託して常時 2 名以上の相談員による対応を行い、L I N E 相談「ひとりで悩まないで@長野」を毎週水曜日と 6・10・11・2 月以外の日曜日にも開設し、年間 85 日間窓口を開設することで、学校生活に関する様々な問題の改善を図った。

8 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標 ①-1	教育支援センター（中間教室）を利用した児童生徒数	R5年度推移	↗	R6年度推移	↗	達成状況	達成
市町村への委託事業等により多様な学びの場の機能拡充が推進され、さらに事業内容を県内に周知してフィードバックを図ることで、利用できる場が充実し、児童生徒数が増加した。							
指標 ①-2	不登校児童生徒等が利用した民間施設等の利用児童生徒数	R5年度推移	↗	R6年度推移	↗	達成状況	未達成
令和 4 年度以前に比べて伸び率が鈍化したことにより目標値には達しなかったが、着実に利用児童生徒数は増加しているため、引き続き多様な学びの場における学びの充実を図っていくことが重要。							
指標 ②	S S W の介入により一定の改善が図られたケースの割合	R5年度推移	↗	R6年度推移	↗	達成状況	達成
SSWの増員及び支援時間の増加により、対応件数を増やすことが出来たことで、連携のケースも増加した。							

9 今後の事業の方向性

(1) 上記 7、8 及び県民の意見等を踏まえた課題

・不登校児童生徒等への支援に関して、学習機会を確保して社会的自立に向けた支援の仕組みづくり等をさらに推進していく必要がある。
・相談体制の充実のためにSC及びSSWの人員及び支援時間増と支援内容の質の向上が必要であり、学校現場からもそれを求められている。

(2) 事業改善の方策

・不登校児童生徒等の支援を目的に、地域人材を活用した相談員（支援員）を中学校の校内教育支援センターへ新規に配置する市町村に対する費用の一部補助や、アウトリーチ支援等様々な面から、支援事業を引き続き推進していく。
・SC及びSSWについては、引き続き人員及び支援時間増と支援内容の質の向上を検討していく。

事業番号	15 07 01	細事業一覧（令和6年度実施事業分）	□当初要求 □当初予算案 □補正予算案 ■点検			
事業名	生徒指導推進事業費		部局	教育委員会事務局	課・室	心の支援課

細事業 No.	細事業名		R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額
1	生徒指導推進事業費		351,880 千円	368,423 千円	399,006 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和6年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	いじめ・不登校等総合対策	委託 直接	不登校児童生徒の学習機会確保や社会的目立に向けた支援のため、多様な学び支援コーディネーター配置により市町村での学校内外の教育支援センターの新設・増設・機能拡充を促進 市町村と連携した支援体制の構築や不登校児童生徒の支援者等との連携を実施 ・多様な学び支援コーディネーター：5名配置 ・有識者等が不登校に係る課題を協議する懇談会：3回実施		
2	子どもの自殺対策の推進	直接	コミュニケーション能力向上研修や教員研修会を実施 ・高校生を対象としたコミュニケーション能力向上研修等：56回実施 ・教員研修会（中学校・高校の教員が参加）：2回実施		
3	スクールカウンセラーによる心の支援	直接	全ての児童生徒が安心して学校生活を送り、学習に取り組めるよう、児童生徒の悩みに適切かつ迅速に対応できるスクールカウンセラー（公認心理師、臨床心理士等）を配置し、各学校における相談体制の充実を図る 相談対応のための全ての公立小・中学校への配置：計32,398時間実施、県立高校及び県立特別支援学校への派遣：計7,707時間実施		
4	スクールソーシャルワーカーによる福祉的支援	直接	いじめ、不登校、暴力行為などの背景にある家庭的な問題に対応するため、社会福祉や精神保健福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカーを配置し、地域や専門機関等と連携して児童生徒を取り巻く環境の改善に向けた総合的な支援を実施 問題の改善に向けた支援のための教育事務所への配置・市教育委員会への派遣：計22,133時間実施		

細事業 No.	細事業名		R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額
2	学校生活相談体制充実事業費		22,735 千円	23,825 千円	23,536 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和6年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	24時間相談電話	委託 直接	いじめや不登校など、学校生活における児童生徒や保護者の様々な悩みについて相談に応じるため、フリーダイヤルの24時間相談窓口を開設		
			年間を通して臨床心理士又は公認心理師1名を配置。また、夜間休日は民間に委託し、常時2名以上の相談員が対応		
2	LINE相談「ひとりで悩まないで@長野」	委託	中学生・高校生の通信手段が電話からSNSに移行していることを踏まえ、通年で定期開設し、いじめや不登校などに起因する自殺防止に向けた相談を実施		
			毎週水曜日と6・10・11・2月以外の日曜日に窓口開設：年間85日間		

細事業 No.	細事業名		R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額
3	性被害防止に向けた指導充実事業費		1,393 千円	1,385 千円	1,452 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和6年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	子どもの性被害防止教育キャラバン隊の学校派遣	直接	専門家を活用した「性被害防止教育キャラバン隊」を編成・派遣し、子どもたちの「危険を察知し回避する力」を育成 教職員研修会を開催し、指導力の向上・性暴力防止マニュアル徹底を図るとともに、児童生徒向けの啓発資料を作成し配布		
			・インターネットを介した性被害を防止する専門家：141回学校派遣 ・教職員向けの性被害防止のための指導方法等研修会：1回実施		